

昭和60年7月1日

同窓会会報

第3号 (1)

同窓会会報

福岡大学医学部同窓会

第3号



筑紫病院全景



筑紫病院の開院に際して

筑紫病院長

奥 村 恒

わが国の医学教育に関する話題のほとんどすべては卒前の教育である。欧米では医学教育のことをPermanent education または、Continuing educationとも呼んでいる。本来臨床医学の教育では、卒前、卒後、生涯と連続すべきものである。大学病院とは最高の医療を通じて、このような臨床医学研修の場を提供するものであらねばならない。

福岡大学医学部、および病院が開発された直後からすでに第二病院の必要性は説かれていた。開設以来12年を経て本学出身の医師も800名を超えるようになった。その卒業生のほぼ半数のものが現在なお福大病院ないし医学部で卒後研修または研究に従事しているものと考えられる。卒後教育の場としては超過密の状態となってきた。このような背景から、いくつかの紆余曲折はあったが、筑紫野市の既設の病院を購入し、一部を増改築して福岡大学筑紫病院として昭和60年7月1日に診療を開始することになった。

福岡大学病院(七隈)も各診療科の所帯が大きくなるとともに風通しが悪くなっている。筑紫病院では規模が小さいだけに各診療科の枠を超えた。patient oriented, すなわち全人間的医療を実践することになる。(たとえば内科・外科の協力による消化器病センターなど) 医療の性格としては態勢が調べば第三次救急医療を目指している。七隈の福岡大学病院や地元医師会と密接な連携を保つつつ、日新月歩の医学、医療を遅滞なく取り入れ、地域医療の中核となろうとするものである。(表1)

開院当初の診療科は内科、消化器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科の8科であり、診療部(部長は兼任)、そして臨床検査部(八尾)、放射線部(松崎)、手術部(有馬)、材料部(松崎)、栄養部(八尾)、病歴部(田中)を置く。ベッド数は225床で開院するが、近い将来に345床とし、総合病院を目指す。医師は表2のとおり、30名で発足するが、なるべく早い時期に研修医も迎え入れたい。さらに態勢が調べば、卒前の学生教育も分担する。

周知のように昨今のわが国の医療費抑制政策は、高度医療を使命とする大学病院にとっては重大な問題である。高度医療と経済性という予盾を両立させることは並大抵のことではないであろう。

病院の構造も、教育病院として機能するためには、今後も改修や増築(研究棟・教育スペース・管理棟など)を必要とする。

上述のような幾多の困難を抱えてはいるが、筑紫医療圏には30万の人口があり、疾患構造も七隈とは異っているに違いない。地元住民の病院へ寄せる期待も大きい筈である。最高の診療を通して、卒後研修、臨床研究の場を確保し、地域医療に貢献しようとするものである。

同窓会各位のご支援を切望する。

表1 福岡大学筑紫病院組織図

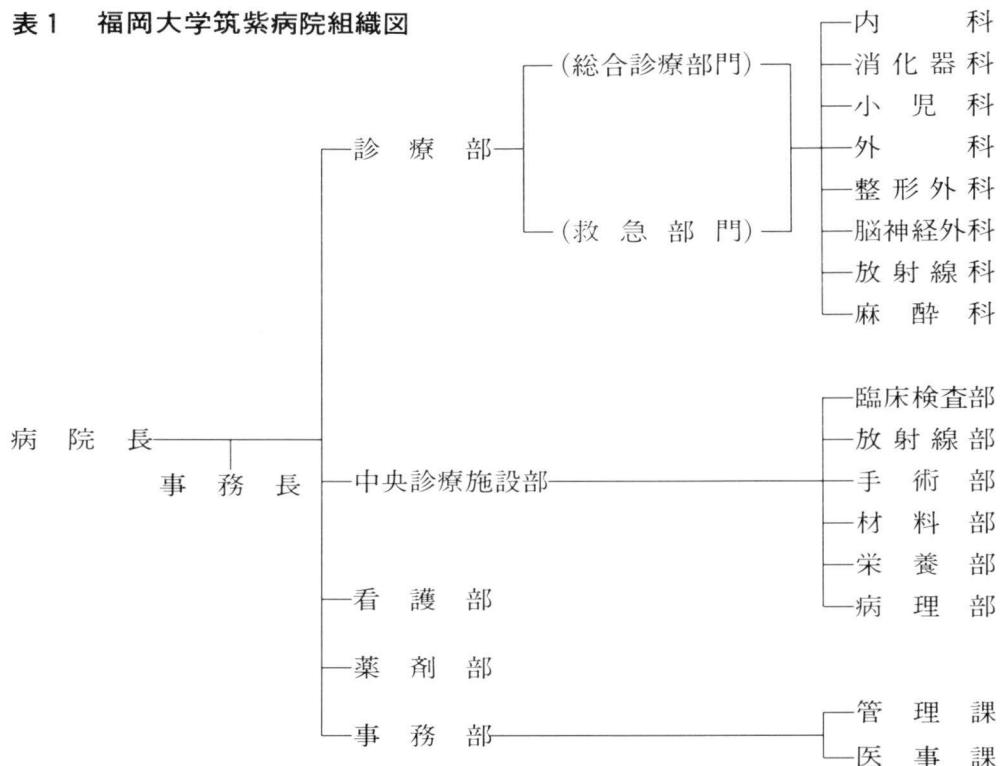


表2 教育職員・医員一覧表

所 属	教 授	助 教 授	講 師	助 手	医 員
内 科	八尾 恒 良		岡田 光 男 今村健三郎	今川みつお 奥平卓己	濱田修二 中林正一 竹中国昭 坂上明彦 内田泰彦
消化器科					
小 児 科			村松 和 彦	大島 久 明	東陽一郎 入江勝一 吉本勝彦
外 科 (消化器科)		有馬 純 孝		重田 正 義 土器 潔 二見喜太郎	山崎宏一 三尾寿樹
脳神経外科			田中 彰	高木忠博	橋本隆寿
整形外科	松崎 昭 夫			木梨博史	白石元英 中村和輝
放射線科				小金丸史隆	
麻 醉 科				内藤 博 文	

【第79回 医師国家試験】

《合格者名簿》

氏名	入局先	氏名	入局先
青柳 玲	久留米大 形成外科	寒野 龍弘	福岡大 脳外科
浅倉 敏明	〃 整形外科	鮫島 哲郎	宮崎医大 精神科
生田 光徳	和歌山県立病院	篠原 貫之	福岡大 外科 I
池田 昭仁	福岡大 内科 II	篠原 弘一	〃 内科 II
伊東 四郎	〃 泌尿器科	篠原 義成	宮崎医大 内科 I
稻葉 葉一	熊本大 皮膚科	下村 徹郎	
岩男 裕二郎	大分医大 外科 I	生野 慎二郎	福岡大 麻醉科
岩隈 昭夫	福岡大 心臓外科	副島 久美子	〃 麻醉科
植木 敏晴	〃 内科 I	高田 洋一	〃 内科 II
宇久村 俊吉	徳洲会病院	高野 美香	〃 皮膚科
大田 貴子	福岡大 小児科	田坂 周治	
大原 元太	〃 内科 II	立木 均	長崎大 精神科
岡田 理	〃 産婦人科	辰巳 裕之	福岡大 内科 I
小川 修介	〃 眼科	立石 訓己	〃 外科 I
井上 三保子	〃 内科 II	立石 修三	〃 外科 I
尾渡 美和子	大分医大 眼科	継仁	〃 脳外科
加藤 詳子	九州大 内科 III	堤伸一郎	〃 外科 II
金井 陸行	福岡大 麻醉科	鶴田 正太郎	長崎大 内科 I
岸泰至	熊本大 麻醉科	徳永 武男	福岡大 心臓外科
北村 久美子	宮崎医大 小児科	戸原 恵二	〃 内科 I
喜多山 昇	福岡大 小児科	富吉 義幸	佐賀医大 内科
木村 俊治	〃 耳鼻科	中庭 洋一	福岡大 精神科
木本 和之	〃 内科 II	中村 吉孝	〃 外科 II
倉光 かすみ	〃 内科 II	永石 節生	久留米大 脳外科
黒岩 宙司		仁位 周介	福岡大 健康管理科
小池 俊一	島根医大 皮膚科	野原 昌亮	琉球大 整形外科
國米 秀幸	熊本大 耳鼻科	廣瀬 清人	長崎大 内科 II
小屋 迫友子	福岡大 小児科	夫秀夫	福岡大 内科 II
阪元 政三郎	〃 脳外科	藤光和宏	〃 健康管理科

氏名	入局先	氏名	入局先
藤吉啓造	久留米大産婦人科	下田敏文	九州大整形外科
逸見嘉之介	福岡大精神科	中野賢三	熊本大麻醉科
松尾邦浩	〃内科Ⅱ	中村卓郎	福岡大放射線科
松岡弘文	〃泌尿器科	中村英樹	〃泌尿器科
松崎元徳	〃内科Ⅱ	新山徹美	鹿児島大内科Ⅱ
松村利昭	久留米大外科I	長谷川浩二	久留米大精神科
松元保	鹿児島大産婦人科	林郁夫	長崎大内科Ⅲ
宮本純治	熊本大泌尿器科	藤井正博	福岡大内科I
渡辺律子	福岡大放射線科	星子龍英	長崎大内科Ⅱ
渡辺良二	〃外科I	真武弘明	福岡大内科I
阿部由利	〃皮膚科	安河内靖	京都第2日赤脳外科
有永誠	〃整形外科	山崎世紀	福岡大外科II
岩本正博	香川医大内科I	青野猛	〃整形外科
白井和之	福岡大内科II	久保次郎	〃内科II
菅朗	九州大内科I	田崎浩一	
千手昭司	福岡大内科II	天野浩司	
津田哲也	〃耳鼻科	木重博史	鹿児島大麻醉科
徳光秀出夫	〃内科I	酒井憲見	福岡大外科II
中村徹郎	〃健康管理科	森重人	京都大外科
永田昌彦	宮崎医大外科II	市川弘城	
野見山祐次	福岡大内科I	境田隆二	福岡大外科第二
馬場和彦	鹿児島大内科I	豊島潔	〃内科第一
東島正	長崎大産婦人科	大藏元	〃内科第一
平野稔喜	九州大小兒科	森田健二	〃内科I
渕野泰秀	福岡大外科I	田中敏嗣	
牧野康男	〃産婦人科	郭健	福岡大耳鼻咽喉科
三宅巧	久留米大小兒科	細川清	〃小兒科
守田誠	福岡大精神科	山縣久幹	〃精神神経科
横山桂	鹿児島大脳外科	片渕雄三	佐賀医大内科
吉本雅彦	福岡大健康管理科	今井隆弘	福岡大健康管理科
岩重浩一	福岡大整形外科	山崎剛	
上野清司	〃内科II		

《卒業生だより》



皆さんお元気ですか

野崎藤子
(1回卒)

同窓生の皆様には、益々御健やかで御活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、月日の経つのは早いもので私が医学の道を志さし早や十三年の歳月が過ぎました。大学で薬学を修めていた

とはいえ、平凡な家庭の主婦から、再び大学に戻り医学の道に入りましたので、現役で入学された方とは十年余りの年令差もあり、又高等学校で学んだ外国語、数学などもおぼろげなものとなっていました。堅くなった頭にねじり八巻で無我夢中で過した学生時代でしたが、先生方、並びに級友の皆様のお励し、暖かい思いやりによってなんとか卒業することが出来ました。研修は宮医大の第一内科にお世話になりました。昭和59年3月博士課程を終了致しました。現在、郷里の病院で診療、経営と多忙な日を送っています。病院は精神科、神経科、内科で、院長を始め数名の先生方並びに宮医大の先生方に来ていただいて居ります。年だけとっても、いつ迄も学生に身を置いていた為、社会勉強のイロハからのやりなをします。いざ診療に当ってみて、まず考えることは、一つは病院の性質上老人問題が大きく占めています。次に医師の生涯教育のことです。何らかの形で大学の臨床と繋がりがあれば、吸収も容易ですが、私の場合はどうしても学会、地域医師会等の講習会などに出席することになりますので、少々ハードな生活ですが、最近の様に医療進歩が目覚しい昨今、少しでも高い知識と技術で患者さんに接したいと念じています。

経営面は、全くの素人なので研修生の様なものです。明るいニュースばかりもありません。人件費の問題、停年制度、諸設備の充実と拡張、患者及び従業員のリエクレーション、それこそ限りない仕事に埋もれます。周囲の人々の協力を得て一つ一つの勉強の段階です。今迄、いい年をしながら父の保護の元で生きていたといつても過言でなかったのですが、その父も私の大学院卒業を待つ様にして、昨年夏亡くなりました。最近困難な問題にぶつかると父ならどう処理したか等と父の仕事の足跡を辿りながらがんばってます。

家庭の方は、息子達は高1、中2と生意気盛りです。小さい時手を入れなかつたので今貸してやろうとしても、もう必要ない様な顔をしてサッカーに明け暮れています。

私自身最近ストレス解消法として、ゴルフを始めました。束の間のさ、やかなこの憩の尊さも多忙な明け暮れの中でこそ大きな感じられます。又クラスの皆様と色々な機会に、お会いすることを切に願っています。

《支部だより》

——佐賀県OB会結成——

開業雑感

永瀬 浩一
(1回卒)

昭和53年3月に卒業後、福大、佐賀医大の皮膚科に在籍していましたが、昭和57年の3月に父がクモ膜下出血で亡くなつたため現在佐賀市で父の診療所を継いでいます。

なにしろ、急に開業したものですから臨床以外のことはまるで未経験で、大海に一人放された様な不安と孤独の毎日でした。それもこの4月で4年目に入りなんとか開業医としての自信もでてきました。開業は医療というより医業という感が強く、思うような治療が保険のために削られたり種々の制約があったりして意欲をなくすようなことが多く、また雑事が多くなり専門の勉強をする時間が少なくなってしまいがちです。しかし、自分なりに週一回の佐賀医大のカンファレンスと学会や研究会にはなるべく出席するようにしていますし、看護学校の講義を週一、二回しておりこれも意外と勉強になっているようです。大学にいる時は、あまり勉強のことなど気にしたことになかったのですが、急に大学を辞めたせいかもしれません、大学には可能な限り残って仕事をした方が良いと思っています。

さて、話は変わりますが今年の1月26日に佐賀県在住の福大医学部OB会を佐賀市の『あけぼの旅館』で行いました。私と福岡君が発起人になり佐賀県出身者だけでなく佐賀の病院に出張にきている卒業生も呼びかけましたところ14名の出席がありました。全員の近況報告、次回よりこの会を定例化(年二回程度)することや名簿の作成などを共に話し合い、二次会までほとんど帰らずカラオケのマイクの奪い合いでした。翌27日には北山カントリー倶楽部にてゴルフを催し盛会に終わりました。最後に出席者の名前を書いおきます。

浅見 昭彦、豊子(6回卒佐医大整形大学院)、今泉 忍(5回卒県立好生館眼科)、内田 敏文(4回卒好生館麻酔科)、大坪 東彦(6回卒佐医大皮膚科)、蒲原 光義(7回卒好生館整形)、菊地 宏樹(1回卒佐医大外科)、世戸 憲男(1回卒眼科開業)、副島 真一郎(4回卒佐医大外科)、永瀬 浩一(1回卒皮膚科開業)、福岡 英信(2回卒内科開業)、宮崎 直和(1回卒外科開業)、森 久男(1回卒佐医大内科)、渡辺 法明(5回卒佐医大内科)



【医局紹介】

第1外科

昭和48年8月、香椎病院へ志村秀彦教授が着任され、第1外科が開講しました。開講当時はわずか数名のスタッフで診療、研究に携わっておりましたが、12年を経た現在、教室員は総勢60名を数えるまでに成長しました。

志村秀彦教授、山本博、池田靖洋両助教授、五十君裕玄講師に代表される胆道系疾患の臨床ならびに研究は、その症例の豊富さとともに全国でもトップレベルであり、国際的にも高い評価を受けております。このことを証明するが如く、志村秀彦教授はハーバード大学の依頼により、肝内結石症に関する特別講演を行われております。また昭和57年より放射線科とタイアップして肝切除も行っており系統的な手術々式と新しい術後管理の確立により、その切除成績は全国のトップレベルにあります。

今回筑紫病院に転出される有馬純孝講師をリーダーとする消化管グループの症例の豊富さも群を抜いており、特に第1内科とのタイアップによる炎症性腸疾患の外科治療に関しては内外の研究者から高い評価を受けております。

その他内分泌外科や小児外科の分野でも各々多くの症例をもとに研究を重ね、学会への注目を得ております。

手術が週に平均7～8例、月水金曜日の外来診療、毎日の回診と教室員一同ゆ

ったりと骨を休めるひまもなく忙しく働きまわっています。“外科医の条件、それは体力!!”とか、Nurseの間で“一番激しい病棟、それは4階西!!”とか言われる所以であります。

第1回卒業生が入局以来、すでに7年が経過し、教室員60名中本学出身者が42名を教えるようになりました。当教室に入局後は外科医としての基礎を体で覚えさせられ、診断部門の放射線科や1内科の透視グループをローテーションしたり研修1年後には出張に出て、第一線の病院で実力を持つようになっております。当教室は大所帯の故、関連出張病院も多く、60名の教室員中32名が現在関連病院で頑張っております。また今回筑紫病院に1回生二見、2回生重田の両君がスタッフとして出張することになりました。教室內でもようやく本学出身者のスタッフが誕生するようになりました。その他2回生の井上君が北九州の芳野病院、田渕君が唐津赤十字病院に就職、また5回生の橋口君が鹿児島大学の整形外科、渡辺君が熊本大学の2外科へと各々郷里に帰り、退局しています。

昭和60年3月には大学院修了者も出て、4名の医学博士が誕生し、現在4名が大学院に在学、各々の研究に臨床に頑張っております。

当教室の行事は日常の飲み会、外科医はどうしてこうも飲むことが好きなので

しようか。日常の緊張感をほぐそうとして無意識のうちに努力しておるのかも知れません。とにかく official にも private にも何かにつけて飲みます。

医局の行事としては、4月始めのお花見にはじまり、5月の1泊2日の医局旅行。この旅行で新入研修医シゴキが始まるのであります。夏は忙しい合間をぬつての海水浴、秋には九大1外科、久留米大2外科、鹿児島大1外科との4大学対

抗の野球大会、テニス大会。10月には諸先輩方が一同に会する開講記念会。寒くなるとひっきりなしの忘年会に、年があけての family 新年会……。いくら忙しそうにしても一応世間なみのことはしっかり行っております。

追：4外科対抗の野球、テニス大会では、まだいまいちパッとしたままで、教室員一同、経験者の入局をお待ち申し上げております。（文責：浅川昌平）

第2外科教室

我が医局は、犬塚教授を筆頭に総勢35名より成り、開設以来11年目を迎え、臨床、研究および医局員数も益々充実してきました。この会報の紙面を借りて近況および医局の紹介をさせて頂きたいと思います。

第2外科の仕事の内容は、2つの柱である消化器外科と胸部外科（肺および縦隔疾患）の臨床を中心として、その上に立つ研究、実にはそれらの発表と、あくまでも患者さん中心の仕事であります。また、病棟患者総数の80～90%が悪性疾患ということもあって、その毎日は、多忙なものですが、体力だけには自信のあるという若者（??）の集団だけに、睡眠不足の中でも、その日の新しい仕事に対して、意欲的に取り組んでいます。現在院外研修の者も多く、南は鹿児島県肝属郡部医師会病院、東は市立小倉病院、西は佐賀医科大学、市内では、国立福岡中央病院、九州中央病院、九州がんセンタ



福岡大学医学部第2外科 第11回開設記念会 86.9.11.17

ーと、これから医師過剰時代に備えて出張病院の充実も、除々になされつつあるという現状です。また、大学院に在籍する者も、数名おります。以上、第二外科の概略ですが、以下、本学出身者医局員のプロフィールを紹介します。

田口先生：第2外科のr-GTPの正常下限は、50と豪語する栄養博士。医局長になって今は事務長と呼ばれています。

元永先生：飲むと服が嫌いになる先生。オジサン可愛いと言うと赤い顔をして、リンゴと象さんをする先生です。仕事には厳しい人なのですが…。

蒲池先生：A B型の温和な先生。ゴルフ

と囲碁には滅法強いと評判。

河野先生：風呂を沸かしながら寝てしまい、風呂を駄目にした事もあります。時々、靴箱と間違えて冷蔵庫に靴を入れた事も…。

秀島先生：クールな独身。頭の必要なギャンブルにかけてはプロフェッショナルです。

草野先生：酒の序でのグチはあまりにも有名。自称、私は真面目。他称、あなたは何？。

荒牧先生：白いマスクに渋いヒゲ。独身青年医師。

濃霧に隠された白い秘密は？

吉峯先生：最近パパになり女性に興味がなくなったという長身の先生です。

朔先生：通称、原子爆弾。この先生の周囲、笑顔と噂が絶えません。

岩崎先生：ケチの大将と言えばこの先生です。宴会で余った物は、腰の弁当箱に入れて持って帰ります。

魚返先生：体育の先生か、人間の先生か、さっぱり区別のつかない筋肉マンです。

奥先生：女らしいのか、男っぽくないのかよく判らないのですが、先日、子供が生まれました。

三尾先生：2外科の名物人間といえば3

指には入ります。通称“アミダババア”。

新屋先生：酒が入ると怖いものがなくなってしまう、意外とオジンの先生です。

隈本先生：この人も名物の一人。第2内科より転科転棟になった先生です。

互林先生：田主丸のプレスリーと呼ばれて、早や2年。今は何処に居るのでしょうか？。

近藤先生：物静かな先生です。しかし、最近、不隠な動きのみられる佐賀出身。

高田先生：ハンサムな先生ですが、何処かカルーセルなのです。

大田先生：沖縄出身の彫りの深い、英語に堪能な先生です。

政所先生：2外科体型ですが、ウインド・サーフィンを得意とします。

増田先生：この人もまた、3指には入る名物男。院内至る所に友だちがいます。

池永先生：最後は、この人に締めて頂きましょう。芸能人が白衣を着た。通称、2外科の所ジョージ。真剣に“私は医者です。”と言っても、誰れも信用しません。

以上、プライバシー etc. 考えずに記してみましたが、仕事上は上の紹介に在らず、皆、真剣です。

(文責：安藤公英)

【お知らせ】

《会費納入のお願い》

昭和60年度 会費5,000円を未納の会員の方は、早急に下記の口座にお振込下さい。

福岡銀行 福岡大学病院出張所
普通貯金口座 No. 18937
福岡大学医学部同窓会
山崎 節

転勤、留学、結婚等で住所、氏名や勤務先を変更される会員の方が多いと思います。ぜひ、同窓会宛てにご一報下さい。会員への通知、名簿作成などに際し消息を追うことは極めて困難なのです。なお、通知用のハガキを綴込んでいます。ご利用下さい。

《編集後記》

会報も3号となりました。筑紫病院開設で、福大医学部も今後の発展が望まれます。

O B会も、一致団結して、前進すべく努力したいものです。
会報への投稿を御協力下さい。 (小金丸)

投稿先 〒814-01 福岡市城南区七隈7丁目45番1号
福岡大学医学部同窓会
編集委員 辻 裕治 宛て

印刷：城島印刷(有) TEL 531-7102